

事務事業名		博物館管理事業		☐ 実施計画登載事業 ☐ 総合戦略登載事業																								
政策体系	政策名	03 豊かな心を育む人づくりの推進		事業期間																								
	施策名	14 生涯学習の推進		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 年度～)																								
	基本事業名	01 学習環境の充実		☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入																								
根拠法令				予算科目 会計 款 項 目 事業 01 10 05 06 03																								
所属	部課名	教育委員会博物館		事務事業区分																								
	課長名	熊谷善男		☒ A 政策事業 ☐ B 施設整備 ☐ C 施設管理 ☐ D 補助金等 ☐ E 一般(A～D以外)																								
	係名	博物館	電話 29-2161																									
	担当者	鈴木康司	内線 -																									
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) ・大船渡市立博物館(昭和41年に岩手県第2号の登録博物館)の施設管理を行う事業。 ・主な業務は、①施設・設備の整備(修繕)、②施設の維持管理(10業務を委託)、③特別開館の実施(平成29年度は19日間)、④博物館無料開放の実施(平成29年度は基石海岸観光まつり期間、東北文化の日など7日間)、⑤博物館施設の供用(市民ギャラリー・多目的ホール等)、⑥博物館情報の提供(市広報、市ホームページ、事業案内ポスター等)、⑦日本博物館協会・岩手県博物館等連絡協議会への加盟、⑧博物館総合保険への加入、⑨入館料・企画展示図録売払代金等の徴収。 ・事業費は、施設・設備の維持管理業務委託料、施設設備の修繕料、光熱水費、賃借料などに支出される。																												
全体計画(※期間限定複数年度のみ) <table border="1"> <tr> <td rowspan="6">総投入量 (千円)</td> <td rowspan="6">事業費 財源内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>都道府県支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費計(A)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">人件費</td> <td>正規職員従事人数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費計(B)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>トータルコスト(A)+(B)</td> <td>0</td> </tr> </table>						総投入量 (千円)	事業費 財源内訳	国庫支出金		都道府県支出金		地方債		その他		一般財源		事業費計(A)	0	人件費	正規職員従事人数		延べ業務時間		人件費計(B)	0	トータルコスト(A)+(B)	0
総投入量 (千円)	事業費 財源内訳	国庫支出金																										
		都道府県支出金																										
		地方債																										
		その他																										
		一般財源																										
		事業費計(A)	0																									
人件費	正規職員従事人数																											
	延べ業務時間																											
	人件費計(B)	0																										
	トータルコスト(A)+(B)	0																										

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

前年度実績(前年度に行った主な活動)

非常用照明交換、コンセント修繕、浄化槽消泡ポンプ交換、収蔵庫床修繕、灯油タンクレベルゲージ修繕、シアター・プロジェクターランプ交換等を実施。特別開館を19日間、無料開放を7日間実施。市広報、市ホームページ等で博物館情報を提供。

今年度計画(今年度に計画している主な活動)

エントランスホールカーペット交換、非常用照明交換、消防用煙熱感知器交換、公用車の車検に伴う修繕等の実施。特別開館を年14日間、無料開放を7日間実施。市広報、市ホームページ等で博物館情報を提供。

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

博物館入館者(市民、基石海岸を訪れる観光客)

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

快適な環境で気仙地域の自然と文化を学ぶことができる

④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)

学習に必要な環境がある

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)

名称	単位
ア 保守点検実施回数	回
イ 施設設備修繕実施件数	件
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)

名称	単位
カ 博物館入館者数	人
キ	
ク	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)

名称	単位
サ 施設設備の故障・不具合発生件数	件
シ 施設設備の故障・不具合対応率	%
ス 博物館入館者数	人

(2) 総事業費・指標等の推移

			年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(目標)	31年度(目標)	32年度(目標)	
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
			都道府県支出金	千 円						
			地方債	千 円						
			その他	千 円	1,038	917	855	700	700	
			一般財源	千 円	9,979	9,425	10,449	10,072	10,072	10,072
			事業費計 (A)	千 円	11,017	10,342	11,304	10,772	10,772	10,772
	人件費	正規職員従事人数	人	4	3	3	3	3	3	
		延べ業務時間	時 間	2,850	2,150	2,000	2,150	2,150	2,150	
		人件費計 (B)	千 円	11,400	8,600	8,000	8,600	8,600	8,600	
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	22,417	18,942	19,304	19,372	19,372	19,372	
⑤活動指標			ア	回	32	32	32	32	32	
			イ	件	16	7	8	6	6	6
			ウ							
⑥対象指標			カ	人	9,871	9,589	7,691	7,700	7,700	7700
			キ							
			ク							
⑦成果指標			サ	件	19	7	9	7	7	7
			シ	%	84	100	100	100	100	100
			ス	人	9,871	9,589	7,691	7,700	7,700	7700

事務事業ID	0894	事務事業名	博物館管理事業
--------	------	-------	---------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

昭和41年、博物館法に基づいた登録博物館になったことをきっかけとして開始した。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

・施設設備の修繕は、シアター・プロジェクターランプの定期的な交換のほか、施設の老朽化等により発生した不具合に対応した。
・利用者数は、基石海岸観光まつりの2日間は博物館の無料開放を実施し、年間利用者数の2割以上の1,900人程度の利用がある。震災後に各方面からの支援を受けた特別展等を開催してきたこと等により入館者数が増加したが、近年は減少し、震災前の水準に近づいている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

子どもたちの理科離れを防ぐためにも、積極的に博物館に足を運んでもらうような取り組みについて、積極的に検討すべきである。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 来館者の利用環境を向上させるために行う事業なので、学習環境の充実に結びつく。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 博物館は市の生涯学習施設であり、その維持管理は市で行うことが妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 生涯学習施設の維持管理であり、対象・意図ともに適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 開館して30年以上が経過しており、施設の老朽化から突発的な不具合が起こることが多くなっている。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 市民の多様な学習ニーズに対応できなくなり、貴重な文化財の調査研究、保護、保存を図ることが困難になる。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 管理事業は必要最小限の業務であり、削減余地はない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 施設の維持管理10業務をビル管理会社等へ一括発注することができれば契約等の事務は軽減するが、ビル管理会社が市内には無く、地域の個別事業者が発注せざるを得ず、削減の余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 一般の入場者からは入館料を徴収している。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性		(2) 改革・改善による期待成果																						
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止		左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																						
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																								
施設の老朽化により修繕、更新の必要な設備が多いので、計画的に対応する必要がある。		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>●</td><td>×</td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		●	×																				
	低下		×	×																				

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止	概ね適切に施設設備の管理がなされている。 今後は、施設・設備の長寿命化を目指し、必要な改修を計画的に進める。